Since 1972.2.24

世界に希望を生み出そう

帯広西ロータリークラブ

第2463回例会

2024.2.1

会報

ROTARY CLUB OBIHIRO WEST JAPAN HOKKAIDO

Rotary

■RI第2500地区スローガン■
今こそ変わる勇気を！
さあ、一歩前へ

■クラブ・テーマ■
皆に希望と笑顔と愛を！
ロータリーを楽しみながら活動しよう！

ゲスト紹介

ハイルハンバグ子ども応援奨学金
代表　小林　志歩 様

(ZOOMより)
RI第2500地区第6分区ガバナー補佐　田中　義博 様
IM実行委員長　大和　志郎 様

米山記念奨学生

ファトヒ，アテフェ 様

2月誕生祝

田中　利昭	会員	1952.2.17
江口　文隆	会員	1956.2.18
小谷　典之	会員	1962.2.20
萱場　誠一	会員	1963.2.10
河合　　敏	会員	1963.2.10
髙橋　耕一	会員	1979.2.24

2月結婚祝

横山　明美	会員	1971.2. 3
古田　敦則	会員	1988.2.14
飯田　正行	会員	1989.2.11
北川　勝啓	会員	1993.2.28
朴　　昌人	会員	1996.2. 8

会長報告

天野　清一 会長

皆さん、こんにちは。まだまだ厳しい冬を過ごさなければならないですが、体には十分気を付けて頂き、ロータリークラブの活動を宜しくおねがいしたいと思います。今月は、平和構築と紛争予防月間です。奉仕プロジェクトや平和フェロー、奨学生への支援を通じ、貧困、差別、民族間の衝突、教育機会の欠如、リソースの不平等な配分といった、紛争の根底にある問題に取り組む為の行動を起こしております。「平和は人から始まる」と考えるロータリーは、平和フェローシップ奨学金を通じて、世界平和と人材を育てて、平和的ネットワークを築いております。紛争地域における平和構築の支援、平和と紛争予防、紛争解決に関連した仕事に従事する事を目指す専門職の人材の為の奨学金の支援を強調する月間です。このように毎月寄付の為に月間目標を決めて、会員の皆様にはご協力を求めていますので、今後とも宜しくお願いしたいと思っております。

来週は、欠席の為、上野副会長にお願いしております。楽しみにしていただければと思います。以上、会長報告を終わります。

会務報告

立崎　貴之 幹事

①帯広5RC･芽室RC・音更RC合同例会開催のご案内
日　時　2月14日(水)
午後0時　会食
午後0時30分～ 1時30分　例会
場　所　ホテル日航ノースランド帯広
演　題　『十勝で求められる国際奉仕とは』
ディスカッション
登壇者　JICA チャム祐子 様
UniteWorks　久保田 様　他
ファシリテーター
NHKアナウンサー　赤松　俊理 様
※尚､帯広東RC､2月13日(火)の繰下げ例会と致します。
帯広西RC、2月15日(木)の繰上げ例会と致します。
帯広南RC、2月19日(月)の繰上げ例会と致します。

②帯広北RC、創立記念夜間例会開催のご案内
日　時　2月16日(金)午後6時30分
場　所　ホテル日航ノースランド帯広

③帯広西RC、2月22日(木)の例会は、休会と致します。
帯広北RC、2月23日(金)の例会は、祝日のため休会と致します。
帯広西RC、2月26日(月)の例会は、休会と致します。

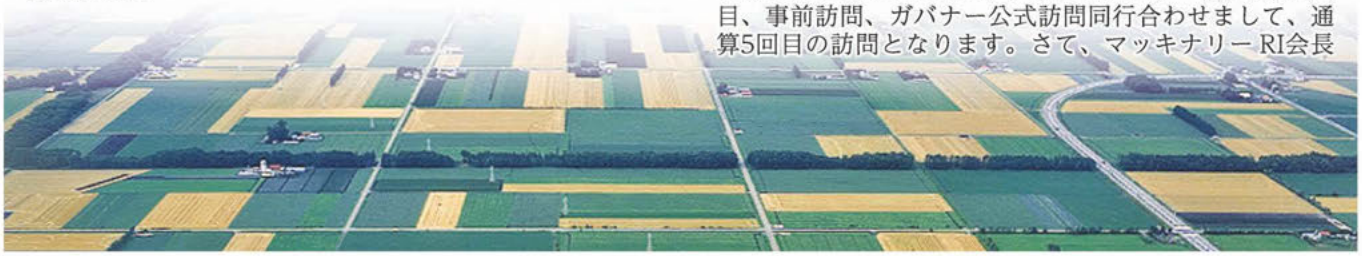
④帯広西RC、創立記念夜間例会開催のご案内
日　時　2月29日(木)午後6時30分
場　所　北海道ホテル
※アルコールがでますので、飲まれる方は運転をお控えください。

⑤例会終了後、定例理事会を開催致します。

ガバナー補佐　講話

田中　義博 ガバナー補佐

帯広西クラブ様におかれましては、日頃よりご理解、ご協力いただいておりますことにお礼を申し上げます。まずは、令和6年能登半島地震に被災された皆様にはお見舞い申し上げます。鶴見ガバナーによりますと、第2500地区は、災害積立金より100万円を支援することといたしまして、各クラブには更なる支援金のご協力のお願いが届いております。期日が3月22日となっておりますが、出来るだけ早い、ご支援をお願いいたします。また、ポリオプラス・ソサエティー入会のご案内も届いていると思いますが、可能であれば、3月末日までにお願いできればと思っております。本日はガバナー補佐訪問3回目、事前訪問、ガバナー公式訪問同行合わせまして、通算5回目の訪問となります。さて、マッキナリー RI会長



Rotary
会　長　天野　清一　副会長　上野　裕司　会場監督理事　伊藤　公康　発行：広報委員会
幹　事　立崎　貴之　副会長　柳沢　一元　プログラム委員会理事　近藤　真治　委員長　板倉　利幸　(副)朴　昌人

例会日／木曜日　12時30分～13時30分　例会場／北海道ホテル　帯広市西7条南19丁目1（TEL 21-0001）
創立／1972年2月24日　事務局／帯広経済センタービル東館3階　TEL 25-7347（直通）　FAX 28-6033

は、7月のメッセージで、また鶴見ガバナーはオンラインの要素を取り入れた、バーチャル交流の体験を提案されています。そこで、今回、3回目の訪問は、当初よりご提案申し上げておりました、zoomを活用した訪問にチャレンジさせていただくこととなりました。西クラブ様におかれましては、ご準備等で、何かとご迷惑おかけしました。本当にありがとうございました。私からの講話の前に3月30日開催のIMに関して、大和実行委員長よりご挨拶させて頂きます。

大和　志郎 実行委員長

こんにちは。この度2023-2024年度IM実行委員長を仰せつかりました大和です。本来であれば2回目のガバナー訪問で挨拶すべき所、IMのご案内の後になった事をお詫び申し上げます。IMの踏力量に関して、今年は1万円とさせていただきました。これは、物価高騰の影響を受け、会場費等、あらゆるものが値上げしましたので、IMを維持するために必要な事ということで、ご理解いただければと思います。また、本年度もIMの全員参加登録のご協力を宜しくお願いいたします。今回は、IMで講演の代わりに各クラブ様よりクラブ発表を頂く予定となっております。発表時間は10分から13分でお願いいたします。各クラブ様におかれましては、お忙しい中、大変おそれいりますが、準備、宜しくお願いいたします。資料は、新旧ガバナー補佐幹事会長懇談会の時にUSB等で提出お願いいたします。パソコンにデータを集めて出力いたしますので、スライドデータにつきましては、パワーポイント形式での作成をお願い申し上げます。IMプログラムの内容はDVDに記録しまして、5月のガバナー補佐の最終訪問の時に、各クラブ様に寄贈する予定となっております。IMの準備に関しましては、至らぬ点もございますが、ホストクラブ一同、多くの会員様のご参加をお待ちしております。宜しくお願いいたします。

田中　義博 ガバナー補佐

ありがとうございました。IMで皆様にお会いできる事を楽しみにしております。どうぞ宜しくお願いいたします。

それでは、私から講話をさせていただきます。今回のテーマはマッキナリーRI会長ご特別に力を入れておりますメンタルヘルスといたしました。帯広西ロータリー様には専門の先生がいらっしゃるので、やりにくいところはございますが、ご理解いただければと思います。

さて、突然ですが、日本における昨年の自殺者の数をご存じでしょうか。26日に発表されました厚生労働省のまとめによりますと、2万1,818人。2020年以降、高止まりの状態とはいえ、交通事故死者数が2,678名ですから、いかに多いという事がご理解いただけるかと思います。また、厚労省が公開しております参考資料によりますと、2020年度の精神疾患を有する総患者数は約615万人で、近年増加傾向にあるということから、これを踏まえまして、2022年4月から高校の保健体育の授業で、精神疾患の予防と回復が盛り込まれております。因みに、文科省によりますと、2022年度に公立小中高と特別支援学校で精神疾患により休職した教員が約6,600人。全体の0.17%を占めております。業務の質の高度化、あるいは保護者の過度な要望などが影響している可能性があると言われております。私は音更町で教員をしておりますけれども、保護者からの理不尽なクレームを経験しております。教員のみならず、対応する教育委員会職員の疲弊ぶりは目に余るものがあります。

マッキナリーRI会長は、講演の中で、メンタルヘルスの取り組みとして、メンタルヘルスの問題に助けを求める事は、弱さの表れであると感じられがちだが、助けを求める事は勇気のある行動であり、健康と幸せに至る道をもとめることは、更にはロータリーは、会員と奉仕を受ける人の両方を支える組織として知られるべきと述べております。そして、最後に会長は、メンタルヘルスの専門家なら誰もが口を揃えて言う事でしょう。他の人を助ける事で、本質的に自分自身が助けられるのだという事です。現実から目を背けず、自分の弱さを認め、自分の不完全さを認め、勇気を持って誰かに助けを求めよ。誰かを助ける事で、自分も助けられる。そう自分を変化させましょう。と述べています。

同じようにRI会長はメッセージの中で今年度はメンタルヘルスを支援する為のプロジェクトを優先的に行っていく。誰かが声も上げられずに、苦しんでいるのを見守るというのがどう言う事なのか。人と人がつながり合う事の力や心の健康と幸せについて話し合う事の価値、予防的ケアと治療が一人の命を救う事になる。と言っておりまして、そして、自分の幸せを守る効果的な方法は、人に親切にする事ですよ。と言う風に述べられております。

メンタルヘルスを優先する事は、何故大切なのですか、という事で、私たちの多く、そして私たちが奉仕する人々の多くが、引き続き、心の健康の問題を抱え、誰にも相談できずに悩んでいます。ロータリー会員である私たちは、その様な人々に手を差し伸べることが出来るのだ。
メンタルヘルスの研究によりますと、思いやりのある行動をとる事は、前向きな気持ちを保つための最も効果的な方法である事がわかっております。と書かれています。RI会長のイニシアティブといたしまして、クラブと地区リーダーをサポートする。といたしまして、メンタルヘルスの優先、ロータリーの文化はコミュニティーを築き、思いやりのある行動を促します。メンタルヘルスに関連した偏見を取り除き、メンタルヘルスのニーズについての認識を高め、質の高い予防ケアと会員へのアクセスを向上させる事で、ロータリーにおける思いやりの文化を広げていく事をクラブとして、地域に求めています。

鶴見ガバナーが書かれていた内容で、メンタルヘルスの中で、ロータリーは思いやる行いを通じて、人々に希望を与え、自らも希望を得ながら、思いやりのある文化を広げる事。と述べておりまして、最後に、思いやりある行為は、困難にくじけずに前進する為の最も効果的な方法である、と言う風に述べております。

メンタルヘルスアクションプラン2013-2030と言うのがあるのですが、2012年に第66回WHO総会で、メンタルヘルスアクションプラン2013-2020と言うのが発表されます。その翌年に更新されて、これが2030年まで延長されたという事であります。当初のこの4つの主要な目的は変わっておりません。すなわち、①メンタルヘルスのための効果的なリーダーシップとガバナンスの強化②地域ベースの、包括的で、統合され、反応性のあるメンタルヘルスサービスと社会的ケアサービスの提供③メンタルヘルスにおけるプロモーションと予防のための戦略の実施④メンタルヘルスのための情報システム、科学的根拠と研究の強化

メンタルヘルスについて厚労省が、世界メンタルヘルスデー2022年より抜粋してありますので、そこを読みますと、メンタルヘルスは体の健康ではなく、心の健康状態を意味する。心の不調は周囲の人に気づかれず、自分からも伝えずらい。回復に時間がかかることもある。生涯を通じて、5人に1人がかかるともいわれている。ストレス等が積み重なって、誰もがかかる可能性がある。差別や偏見のないあらゆる人が共生できる社会を築くことが重要である。支える側、支えられる側という環境を超えて相互に助け合える社会を築くことが重要である。社会精神保健連盟が1992年よりメンタルヘルス問題に関する世間の意識を高め、偏見をなくし、正しい知識を普及する事を目的といたしまして、10月10日を世界メンタルヘルスデーとして、シルバーリボン運動、シンボルカラーは銀色となっております。

精神疾患メンタルヘルスガイドブックがあります。このガイドブックというのは決して専門家ではなくて、その精神疾患の当事者や家族などを対象とした一般向けのガイドブックです。もし、読む機会があれば、是非皆さん、読んでみてください。早期発見、早期介入を目指して、本人や支援者たちのための必要な知識や対処の仕方が、実に詳しく書いてあります。私なりにまとめたものが3つになります。①精神疾患は全ての年齢層の人たちがかかる可能性がある。②精神疾患を持つ人自身ではなく、同じ様にその支援者にも重要である。③精神疾患と共に生きるという事は、とても大変な事であるけれども、支援を受ける事が出来る。

以上で、私からの講演とさせて頂きます。

ニコニコ献金

菊池 俊博 親睦活動副委員長

金澤　宗一郎 国際奉仕委員長

本日、担当例会です。よろしくお願い致します。

小野　辰夫 会計

本年初めての例会参加です。一年間よろしくお願いします。皆さん、馬とケガには充分に気をつけて下さい！

菊池　俊博 委員

ニコニコ発表させていただきます。

ニコニコ献金		
	2月1日	10,000円
	累計	431,000円（2月1日現在）

◆プログラム

「帯広西ロータリークラブの国際奉仕」

ハイルハンバグ子ども応援奨学金　代表　小林　志歩 様

金澤 宗一郎 国際奉仕委員長

みなさん、こんにちは。本日は、ハイルハンバグ子ども応援奨学金　代表を務めています小林志歩様をお招きして、ご講演頂きます。帯広西ロータリーは2007年より、10年間に渡って、モンゴルの教育活動支援を続けてまいりました。その中で、小林様と深く関わりを持った次第でございます。

本日は小林様から、当時の活動であったり、またその後のモンゴルの状況であったり、そして、現在小林様が活動されている事を含めてご講演いただきたいと思いますので、本日、どうぞ宜しくお願いいたします。

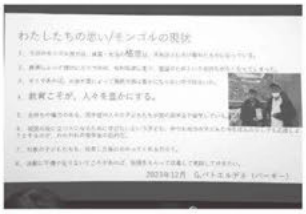
小林 志歩 様

こんにちは。大変ご無沙汰をしておりました。また、新しい会員の皆様、初めまして。私はモンゴルの支援を地域から続けておりまして、その中で帯広西ロータリークラブ様とのご縁で、10年間支援活動を行いました。その後もずっと続けているんですけれども、その辺りも含めて、貴重な時間を頂きまして、ありがとうございます。

今日、お話しする内容ですが、まずは、この帯広西ロータリークラブ様のご支援がどの様な形で、一緒に活動してきたのかというのをご説明させていただきます。その次に、その後の状況、私がご無沙汰している間にどの様に活動していたかという事を含めながら、地域に技能実習生、外国人材が増えてきたというタイミングとも重なりまして、技能実習生のお世話もしておりました。その現状もお話ししたいと思います。ジャイカ帯広に勤務しておりまして、近く2月10日に開かれる国際フェスタというイベントがあるのですが、そこの中で、技能実習生、特定技能の働く外国人の方を対象にしたカラオケ大会というのを企画しまして、その事についてご協力のお願いをさせていただきたいと思います。宜しくお願いいたします。

まず、『ハイルハンバグ子ども応援奨学金の会』という会を2007年から立ち上げまして、モンゴルの一つの地域の子供たち、そこの経済的に恵まれない子供たちに学校に通うための必要な物品を現物支給で行うという会を2007年から行っておりまして、その活動の方に西クラブさんからご寄付を頂いておりました。きっかけは、モンゴルのスタディーツアーを運営している仕事をしていて、その現地の遊牧民のゲルにホームステイするツアーだったのですが、その地域の方たちとの交流から始まった活動です。日本で行う事は、寄付を集める。そして、モンゴルのパートナーのバギーさんという方がおりまして、その人が首都から600km離れたチョロートオトソムという所に学校がありまして、そこに必要なものを調達して届けてくださる。先生から子供たちに直接、学用品であるとか制服であるとか、学びに欠かせないものを渡すという活動でございます。

どんな思いでやっているのかという事は、とにかくモンゴルでは貧富の格差、それと日本と比べる事が出来ないほどの物価高が続いております。本当に天に届きそうに高いという風に人々は表現するのですが、その中で唯一あがらないのが給料だという風にみんな話していまして、とにかくお金持ちの人たちも、鉱産資源が豊富な国なので、そういうもので儲かった人もいるのですが、一方で庶民、公務員、学校の先生とか、警察官とか、公務員はとっても給料が低くて、月給が5万円とかその程度だったり、もっと安い仕事をしている人もたくさんいます。そういう状況の中で、教育こそが人々を豊かにすると、お金とかによって人は豊かにならない。ということをバギーさんは言っています。私たちもその気持ちは同じで、とにかく子供たちにみんなが心配せずに学校で学べるように、という所で、少しでも地方の子供たちを応援しようという気持ちで活動しています。2018年まで、西クラブさんにご支援頂いていたのですが、その後もずっと年に1回支援を届けております。1年だけ、コロナで持っていけなかった年があったのですが、持っていくと言ってもウランバートルにいる人たちにお金を届けて、そこから持って行ってもらう。



この写真の方は十勝農業機械協議会の山田会長なのですが、モンゴルとつながって、ジャイカの事業をしていまして、私も通訳翻訳で参加させてもらっていたのですが、そういう事業でモンゴルに行かれるときに、「お金をお願いします！」と言って持って行ってもらって、その支援先の方に、という形で。と言うのも外国送金も今、難しくてなかなか簡単に送れないという実情もございまして、そういうように地域の皆さんの力をかりながら、今も続けております。

そして、歴史を振り返ってみたいのですが、この写真は2007年、初めて私たちの会の立ち上げのタイミングで西クラブさんもご支援を検討くださいまして、そして一緒に渡航させて頂きました。越智さん、ゲルに一人で泊まりたいと言ってました。ゲルという遊牧民の住居がたくさん並んだようなゲルのホテル、ツーリストキャンプというのが地方の定番のホテル、宿泊施設なのですが、一人で泊まられたのがすごく印象に残っています。この様な形で、ここのツーリストキャンプは私たちのパートナーのバギーさんが経営している首都から50kmくらい西に行った所のキャンプでした。そこで楽しく歓談している様子が映っています。

これは写真館の岡田さんが撮ってくださった写真です。岡田さんと尾藤さんが私たちが支援している首都から600km離れたハイルハンバグ、バグというのは、村と地区の間くらいの最小の行政単位なのですが、ハイルハンという場所です。そこに一緒に行っていただきまして、こういう高原、モンゴルのスイスと呼ばれている高原地帯で、ここで見るとあまり木は見えないのですが、これでも木が多い、森がある地域にはいるのですが、ヤクという牛がとっても濃いミルクを乳脂肪分8%くらいのミルクを出して、それで作る乳製品がモンゴルではブランドになっている、そんなチョロートという場所で私たちはつながって支援をしています。ここを訪れた時に、住民の方とどの様な状況というのかと言うのを一緒にお話を聴いて、また、尾藤さんはバイク屋さんであるので、当時はロシア製が遊牧

民の足として、非常に普及していたので、それをチェックして頂いたりというのもありました。

これは、住民の方と交流して、尾藤さんが隣の若者と腕を組んで写っておられますけれども、道中がやっぱり悪路だったので、腰が大変だったとおっしゃっていました。懐かしく思い出します。岡田さんも遊牧民のゲルに一緒に泊まったり、そういう経験もしながらの交流の旅でした。それをきっかけに会としてご支援を頂いて、10年間、こうして活動の報告をさせて頂きながら、支援をしていただきました。本当にありがとうございました。おかげさまで、安定してスタートが切れて、今も仲間と活動を続けていられることに感謝しております。

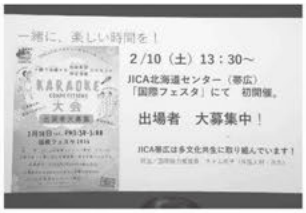
これが、女の子の笑顔、真新しい制服と学用品をプレゼントして、子供たちが本当にうれしくて「学校で頑張ります」と言う風に先生もおっしゃっていました。支援の内容はだいたいこのような規模で、だいたい20～30名くらいの子供たちに支援を渡しております。先生方に、どの子にというのは先に情報を頂いて、用意して届ける。規模としては年に、今物価が高いので20万円くらいの規模で1年に1回届けております。結構、ガソリン代がかかってしまいます。600kmの距離なので。それも含めてご寄付で賄っております。

次に2018年5月にもご一緒させていただいて、この時はチョロート郡、先ほどの学校と首都の第12学校という学校に20万円の向こうが何が欲しいのか、何が必要なのかという事を話をして、向こうで本当に必要なものを買ってもらうという形で支援が出来ました。それが本当に良かったと思います。体育のマットレス、すごく良いものが買えたと喜んでいて、あと、音楽の機材ですね。それが、右側ですね。先生たちが使う機材も自分の手弁当でやっているのだと聞いて、そういうものも買いたいという事で、事務用品等を10万円で買っていただくという形でご支援が出来ました。

その旅で、ゴビ砂漠にも足をのばしました。短い行程だったのですが、5月の末でしたが、短い期間でモンゴルは楽しめるのだという事を私も実感して、首都からこのプロペラ機で1時間でゴビ砂漠に行く事が出来ます。ゴビ砂漠でラクダに乗ったり、楽しい思いもさせて頂き、茨城さんもこの笑顔。楽しい時間を過ごして帰ってまいりました。今の向こうの状況もお伝えしたいと思いまして、先生が「あのマットレス、今も大事に使っているよ。柔道や、サンボや部活をしている子供たち、放課後の活動、体育に今でも使っているよ」と言ってくれて、とてもロータリークラブの皆さんに感謝をお伝えくださいという事を言っていました。音楽機材も入学式とか卒業式とか毎回使っていたのですが、昨年故障して、それは使えなくなってしまったと話していました。今の先ほど話しました私たちがずっとやっておりますハイルハンの方は校舎が最近新しくなりまして、小学校から高校まで一つの学校で学ぶ形式のシステムなので、大勢の子供たちがいますが、私たちが支援しているのは基礎教育の部分ですね。そういった形で続けております。

そして、ご無沙汰していた間の話をしたいと思います。これ足寄の芽登の農場さんですね。私、東京の技能実習生の管理団体の依頼で、契約をしてモンゴル人の技能実習生の担当として、月に1回訪問して、巡回指導という形で、ちゃんと給料もらえていますか、とか、いじめられてませんか、とか、仕事どうですか、とか、実習生の方に聞く。そして何かあれば管理団体の方に伝えるという仕事をしていました。コロナの間で、モンゴルに行けない期間だったので、とにかくそれをやっていたのですが、これを足寄の芽登の某牧場なのですが、これ、みんなモンゴル人なんです。このおじさんが社長さんなんです。というのはこの方はモンゴルでは有名な方なのですが、帯広畜産大学を卒業されて、今、牧場経営をされていまして、そこの牧場にはモンゴル人の技能実習生とか、特定技能とか、他の資格の方もいるのですが、たくさんのモンゴル人が活躍しています。その時に、私は思いました。「あっ、このような時代がくるんだな。日本人だけじゃなくて、他の国の人もここで働いてここを故郷にしたいという人がここの地域を支えていく」のだと。モンゴル人は畜産にかけては、何千年と言う歴史を持っている国なので、そうなんだな、と言う風に思いました。外国人技能実習生と言うのは、最近よく聞くと思いますし、実際雇用している方もいらっしゃると思うのですが、帯広市にどれくらい実習生がいるのかご存知ですか。帯広市は500人くらいです。思うよりいるんですよね。十勝全体で1500人くらいの外国人材が活躍しています。やはり酪農関係が多いです。これから、外国人労働者と言ったら、本当に大変な思いして、仕送りして、悲壮感をもって働いてたようなイメージがあったと思うのですが、実は、普通の若者です。

ある女の子は2年間頑張って働いて、留学したいという夢を持っていて、今はアイルランドに留学しています。休日に海にみんなで行ったり、紅葉を見に行ったりという事で、私も空き時間でやっていたのですが、残念だなと思う事がありました。彼女たちは仕事をしていて、地域の交流がないまま、期間が終わって帰ってしまうという事が多いです。今度来るときは都会に行きたいという子もいます。なかなか地域の良さをわからないまま帰っている気がして、とても残念な気がしていました。



そこで、この7月からジャイカ帯広で働き始めて、国際フェスタという例年行っているイベントがありまして、その中で、技能実習生とか特定技能の人を対象にしたカラオケ大会。そういう中で楽しい時間を過ごしてもらいたいという事と地域の皆様に技能実習生ってどんな人たちなんだろうって、いう事も見て、知ってもらえる交流する機会にしたいという気持ちで、やろうとしています。それをジャイカ帯広としても多文化共生というのは大切なテーマと捉えて取り組んでいまして、担当はチャム裕子さんというとっても元気なスタッフさんがいまして、活動をしています。彼女も技能実習生の実情を知ってもらう事を特に力を入れていきたいと言っております。それで、このカラオケ大会は地域で支えていただきたいと思っておりまして、お金はジャイカは公的な機関なので集められないので、何か特産品とか、企業の皆様の自社製品を現物でいただいて、それを実習生への商品にしたいなと思っておりまして、是非、そこに西クラブさんとしてご協力いただけないかなという事をお願いしたくてまいりました。それは、十勝の良さを知ってもらうという事にもつながると思います。会場で、こういう企業さんから、こういう商品をいただきましたという事は紹介させていただきます。このような技能実習生とか地域の外国人材の支援という事で、今までの積み重ねられてきた国際奉仕のご経験を是非、そこにも活かして、地域として、これからも外国の人たちが来たくなるような、今来ている方たちの家族も来たくなるような、そういう十勝にしていきましょう、という呼びかけというか、一緒にやりたいです、というのをお願いしに来た次第です。モンゴルも綿々と続けていますので、また機会をみつけて、ご一緒できる事があればなという風に楽しみにしております。今日は大変スケジュール過密の中、私の話を聴いていただき、ありがとうございました。